サ高住

被災の一時利用も提供

南海沿線 大阪・泉南 丸竹コーポレーション 30日以内短期に対応

見学用にモデルルーム風にした部屋

建築資材や災害用品などの製造を手掛ける丸竹コーポレーション（大阪府泉南市、立花克彦社長＝写真）は、クリニック併設のサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）「フラワーホーム」（40室・定員50人）を運営している。土木・建築用のフェルト資材や合繊系原料のリサイクル・梱包加工などを手掛ける。災害用備蓄として官公庁・企業向けに毛布と生理用品・おむつなど衛生用品を提供する。それぞれ全国6割、4割と全国トップシェアを誇っている。

シニア向け住宅ビジネスは、地主などから土地売却の申し出を受けて2012年に相場より割安で約2000平方㍍の用地を仕入れたのがきっかけで参入した。南海本線樽井駅からバスに乗り給食センター停留所から徒歩1分の場所にサ高住を建てた。

「当時、シニア向け住宅が存在していなかったことと、地域の雇用創出に貢献したい」と社長の肝いりで始まった。同社でも初のサ高住としてスタート。昨年10月に3年目を迎えて直近1年間の平均稼働率は75％という。

そうした中、大阪が昨年台風の直撃を受けてフラワーホーム周辺でも電柱が600本ほど倒れたり、ライフラインが寸断される被害を受けた。こうした被災後に家の修理など一時的に住めないことを想定して短期入居者の受け入れを始めた。10組の利用実績がある。

フラワーホーム理事長を兼任する立花社長は、「保険適用外の有料サービスではあるものの、災害のほかに在宅介護では、さまざまな場面で自宅を数日から数週間空けなければならない予定もある。ショートステイ施設は不足しており、予約が取れずに思うように利用できないのが実態。申込受付が3カ月前からのケースも少なくない。介護者が出張や旅行で家を留守にする間や年末年始のヘルパーが手薄になる期間や、退院直後で身体が回復するまでの利用なども想定する」と話す。

満60歳以上であれば事前の健康診断を受けてから好きなタイミングで利用できる。自立の人で1日8000円、上限30日まで受け付ける。1カ月以上の場合は、正式審査を経てからサ高住として利用できる。

また、稼働1年後には、高齢者の雇用・生きがいづくりの一環として、入居者のアルバイト制度も導入している。週2～3時間ほど庭の手入れや共用部の清掃補助などに法定最低賃金を支払う。こうした取り組みに厚労働副大臣が視察に訪れたこともある。

団らんや体が動かせる共用空間

フラワーホームは重鉄骨造3階建て延べ1831平方㍍。「入居者の住みやすさ」と「働く人にストレスがかからない施設」。この2つを中心に、要支援・要介護の人と自立の人が入居しており、入居者の平均年齢は80歳、最高齢は104歳となっている。居室用スペースまで決めた。

大阪南部エリア出身者を中心に、要支援・要介護の人と自立の人が入居しており、入居者の平均年齢は80歳、最高齢は104歳となっている。居室タイプは、単身用と2人向けに加えて、夫婦居室プランも用意する。居室面積は18、25、30平方㍍をそろえ、夫婦居室プランでは18平方㍍の居室2つを使用。25平方㍍と30平方㍍は4つあり、このうち部屋ずつは風呂付き。共用部には1人ずつお湯を入れ替える個浴や機械浴を備えた。

月額費用は、賃料・食費・管理費・共益費を含めて10万7600～11万3600円となる。

24時間・365日スタッフが常駐し、居室・浴室・多目的トイレにナースコールを設置した。日中には看護師も常駐する。併設クリニックは、テナントとして入居してもらう形で通院だけでなく居宅までの往診にも応じる。薬などもクリニック内での処方ができるほか、提携薬局が居室まで薬を届けるサービスも提供している。

市場規模

30年度に最大11兆円超を予測

不動産業への波及効果1.24兆円

シェアリングエコノミー協会は4月9日、情報通信総合研究所と共同で日本のシェアリングサービスに関する市場調査を発表した。

それによると、2018年度の経済規模は過去最高の1兆8874億円を超えたことがわかった。

今後の予測としては、30年度には7兆7589億円を見込み、着実かつパラレル型と同規模に達する。シェアリングエコノミーの一般的な認知度や法制度、安全性などの課題が解決した場合は、30年度に11兆2775億円と現状の6倍近くに拡大する見通し。これは電子部品製造や製薬業界に匹敵する市場規模という。

調査・サービス提供者と利用者との取引金額を市場規模として定義。同協会が市場調査を実施するのは初めて。同協会では、調査の精度が高まるにつれ、①お金②スキル③物④モノ⑤スペース――の5つに分類される「シェアリングエコノミー」の定義が曖昧なことで調査機関によって数字がまちまち」といい、そうした現状を踏まえて協会として調査することにした。今後定期的に実施する予定。

既存産業への経済波及効果は1兆4120億円としており、30年度にはベースシナリオで1兆2582億円、課題解決シナリオで3兆1388億円と約2倍、波及効果が大きい上位5業種は、課題解決シナリオで「製造業」（1・8兆円）、「サービス業」（1・79兆円）、「不動産業」（1・24兆円）となる。

一モノのシェア（売買）」や「スペースのシェア（民泊）」「移動のシェア（カーシェア）」は、低価格の個人から利用する割合が高い。民泊新法施行後に民泊サービスの提供を始めた人も50％に達したし、その理由は「民泊新法の手続きが面倒（50・5％）」が最も多かった。新法のほかに自治体独自の条例によって出来なくなった割合も30％弱を占めた。ただ、シェアサービスのヒート利用は最も多いのが「スペースのシェア（民泊）（46・8％）」となっている。

また、シェアサービスは、代用はなく新しい価値を生むものとして捉えているケースが多いという。

	2018年度	2030年度 ベースシナリオ	2030年度 課題解決シナリオ
製造業	3,138	8,946	18,087
情通	1,854	5,395	10,916
金融・保険	815	2,322	4,694
不動産	2,160	6,139	12,451
運輸・郵便	842	2,401	4,854
情報通信	856	2,526	5,107
サービス	3,117	8,886	17,966
その他	1,266	3,613	7,306
合計	14,129	40,252	81,381

単位：億円

シェアリングエコノミー協会

民泊撤退も浮き彫りに

耐築年と競落水準の相関関係

平成初期ワンルーム表

3月1日開札は東武東上線「上板橋」駅徒歩10分圧迫地区の新築（最寄り駅のワンルームマンションが対象になった。このマンションは平成3（19 91）年1月築のバブル時代の投資用マンションである。資料1部1万円にて頒布されており、競売物件は売却基準価額になっている。

年収は60万円だが管理費と月額1万2200円）および固定資産税・都市計画税（年額2万4600円）を差し引くと実収は約40・5万円である。

いるが、こちらは専有面積が約8坪あり、風呂・トイレは別のマンションである。

同じ収録の「東武練馬」駅徒歩11分圧迫地区」は、専有面積が約17・01㎡（約5・5坪）と狭小の物件の6割以下の利回りとなっている。

築年と競落水準の関係が分かる競売事例2つであった。

（ワイズ不動産投資顧問・山田純男）

世界の不動産ビジネスの近況 4月19日 オープン報告会 第1回

参加者募集

日時：4月19日（金）：午後5時20分～6時40分
場所：ABCアットビジネスセンター・渋谷東口駅前

地元の不動産業　物件豊富！
北澤商事㈱
本社／〒123-0841 東京都足立区西新井1-6-12
☎03（3898）1141 FAX.03（3898）1144
http://www.kitazawa-s.co.jp

弊社は物件料理のアドバイザーで

ワイズ会員募集！